

科目名	Tokyo P-TECH特別講座							年度	2026
英語科目名	Tokyo P-TECH Special Lecture							学期	通年
学科・学年	情報処理科 1年次	必/選	選P	時間数	60	単位数	4	種別※	講義+演習
担当教員	Tokyo P-TECH関係者、大矢	教員の実務経験		有	実務経験の職種		IT関連職種		
【科目の目的】 本講義は、学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから学び、見識を広げることを目的とする。今後求められる人材には、知的好奇心を持ち、興味を抱いた事柄を深く探究する能力が必要である。本特別講義では、Tokyo P-TECHの関係者が学生の知的好奇心や探求心を刺激し、他者との協働や競争を通じて想像力や発想力を養う機会を提供する。									
【科目の概要】 本講義は、Tokyo P-TECHの関係者による講義で構成され、事前調査、聴講、聴講結果報告の3つのユニットを1セットとして進める。聴講内容の理解を深めるため、事前調査を必ず行うことを重視する。また、授業時間外での自主的な予習も奨励する。知識を定着させるため、聴講した内容を単に終わらせるのではなく、必ず聴講結果レポートを作成することが求められる。さらに、外的環境との関わりを意識しながらビジネススキルの向上にも取り組む。なお、プロジェクトは期間中に複数回実施する予定である。									
【到達目標】 本講義を聴講することで、学生は最新技術動向に深い関心を持ち、主体的に勉強会やカンファレンスに参加する姿勢を養うことを目指す。さらに、就職活動においては、学生自身が目指す業界や人材像を明確にする手助けを行う。また、聴講レポートの作成を通じて文章作成能力を向上させ、情報を整理して発表するための論理的思考力を養うことも重要な目標である。									
【授業の注意点】 本講義では、学生の主体的な学習姿勢を重視する。具体的には、事前調査の精度や外部講師への積極的な質問、他者との関わりを評価する。聴講後のレポートには、聴講内容を単に羅列するのではなく、自分の考えや新たに学んだことについての調査結果を記載することが求められる。授業には出席するだけでなく、社会に出ることを意識した受講マナーを守って参加することが必要である。ただし、授業の出席が4分の3未満の場合は、成績評価は行われないので注意すること。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている			レベル2 ふつう				レベル1 要努力	
到達目標 A	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会に継続的に参加している			最新技術動向に関心を持ち、勉強会に参加したことがある				最新技術動向に関心を持たず、主体的に勉強会に参加したことがない	
到達目標 B	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的にカンファレンスに継続的に参加している			最新技術動向に関心を持ち、カンファレンスに参加したことがある				最新技術動向に関心を持たず、主体的にカンファレンスに参加したことがない	
到達目標 C	就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができる			就職活動をする上で自らの目指す業界を定めることができる				就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができない	
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 レジュメや資料を配布する。また、参考書や参考資料については、講義ごとに指示を行う。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 授業内容の理解度を確認するため、レポートを作成する。授業時間内に行われる発表の方法や内容を評価し、積極的な授業参加度や授業態度も評価に含める。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

